

奨励賞



設計担当者

下吹越武人

東京建築士会、(有)エー・エー・イー一級建築士事務所



共同設計者

佐藤 淳

東京建築士会、(株)佐藤淳構造設計事務所

戸建住宅／東京都杉並区

K2 house

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 113.55㎡

建築面積 | 61.81㎡

延べ面積 | 100.79㎡

竣工 | 平成30年4月16日



1



2



3



4



1階
平面図



2階

- 1 ハナレから室内を見る。さまざまな場が重なり、隣地まで視線が抜ける
- 2 ダイニングからリビングを見る
- 3 リビングからタタミスペースを見る。1階はワンルーム空間だが、中央の木箱が視線を遮ることで場に奥性と多様な関係性を生み出す
- 4 建物鳥瞰。四角いボリュームとそれを囲む3つの〈ニワ〉

写真1～3…小川重雄

写真4…新建築社

選評

都心に近い駅の前で巨大な再開発が進行中である。すでに完成した西側の端部には、大きな街路と歩道が事業の境界を示している。この住宅の前面道路は、その歩道を挟んだ向こう側に並行して走っている。極めて狭い道だ。なぜかこの大小の道はまったくつながっていない。再開発事業の境界が、じつは区境になっているためだ。この住宅はまさにこの境界線上にあり、対照的な木密地区に属する。ただ木密とは言っても住民にとっては、心地よい光や風

にあふれる愛すべき環境である。路地の狭さも同様に適度なスケールなのだ。

以前から長く存在するこの街並みの価値を共有することをめざし、一方で住み手の主体性を強く表現する住空間である。三角形の敷地に四角いボリュームを置き、それを3つの三角形〈ニワ〉で囲む。東側の〈ニワ〉は切れ込みを入れ、通りに開く。その中は庵のような〈ハナレ〉で、この住宅の焦点だ。西側の〈ニワ〉は空に開いた明るい食事のスペース。中央の四角を明快

にするためトイレ等はボックス状にして置いた。少し下がったリビングに座ると通りを歩く人がよく見えて、ここは街に開かれている、とわかる。この空間の上に巧みな構造体が重ねられ、さまざまなディテールは、ミニマルな空間の中に潜んでいて見えない。

街に開いた〈ニワ〉を通してこの街の価値を共有するという作者の意図に、まさに街がはまった。(可児才介)